

長野県革新懇ニュース

2018年5月号
発行日5月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 0510-3-15971

228

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 マブソン青眼さんインタビュー
- 2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3面 『企業組合労協ながの』の取り組み 原山政幸さん 読者の声
- 4面 『あん時やどしやぶり』窪島誠一郎さん 映画評論「ペンタゴンペーパーズ」内山到さん 漢字パズル

長野県革新懇

検索



1968年フランス生まれ。俳人、比較文学者。金子兜太主宰「海程」同人、「青眼句会」主宰。信州大学、十文字学園女子大学非常勤講師。句集『空青すぎて』(宗左近俳句大賞)他4冊、著書『詩としての俳諧、俳諧としての詩』『一茶とワイン』『江戸のエコロジスト一茶』他、訳書『反骨の俳人一茶 Haikus satiriques de Issa』"Cet été-là, j'étais soldat..."(金子兜太著『あの夏、兵士だった私』フランス語訳)他、編著『反原俳句三十人集』『日本レジスタンス俳句撰』他。1996年より長野市在住。「俳句弾圧不忘の碑」建立事務局代表。

憲法が危うい今だからこそ

俳句弾圧事件を想起しよう

マブソン 青眼さん
(俳人、「檻の俳句館」館主)

初来日で俳句に興味

Q どんなきっかけで日本や日本文学に関心をお持ちになったのですか。

10歳の頃から詩人になりました。10歳頃か、思っていました。高校生の頃、AFSという団体の交換留学生になり、最初は、アメリカかなーと思ったんですが、母に誰も行かない国の方が面白いんじゃないかと言われ、中国を考えました。しかし、当時の中国は国内事情から交換留学はできないということで、軽い気持ちで隣の日本に決め、宇都宮高校に1年間留学することになりました。

非常によかったのは、詩人になろうと思っていた私が、宇都宮高校の図書館で芭蕉の英訳の本などを見つけて俳句に興味を持つようになった。

一茶の反骨精神に共感

Q 一茶に惹かれる理由は何ですか。

先ほど申し上げたとおり、最初は地方出身のパリ大学の学生として俳人の中では芭蕉や蕪村よりも一茶に親近感がありました。その後だんだんと一茶の社会性のような部分、一茶の反骨精神に惹かれるようになっていきました。実は「反骨の俳人・一茶」という本を出したんです。一茶なら改憲問題をどう思うか、みたいなことも書いています。

その頃、長野がオリンピック前で国際交流員の仕事があったので、応募して合格し、3年間長野県庁とNAOCでフランス語の翻訳、通訳の仕事をするようになりました。でも心の中では、日本語で俳句をつくるようになったら、日本に行つてどんな仕事でもやりながら、日本語の俳句の研究、特に一茶の研究をしたいという気持ちでいました。3年契約の仕事が終わって、今度は早稲田大学で尊敬する堀切実教授の下で5年かけて博士号を取りました。長野に友達もいたし、長野にいないと一茶の実際の生活が理解できないという気持ちもあつたので、大学の非常勤講師をやりながら長野に住むようになりました。

たことです。最初はフランス語で五・七・五を踏んだりしていましたが、あまりしつくりこないということで、フランスに帰国後、パリ大学の日本文学科に入つて日本語の俳句を勉強しました。そのあと大学院でも日本文学研究科に進み、フランス語ではなくて日本語で俳句をつくるようになりました。当時から小林一茶に非常に興味があつて親近感もありました。私はノルマンディー育ちだったので、一茶のような田舎の詩人だという気持ちがありました。1995年に修士号を取つたやいなや日本語で一句が浮かんだんですね。「檻の花にひかれて 母の海」という句です。その一句に初めて満足感があつて、俳句は日本語に限ると感じました。

俳句弾圧事件の犠牲者の名誉回復を

Q 「俳句弾圧不忘の碑」建立の動機をお聞かせ下さい。

ヨーロッパでは反戦詩をつくらただけでナチスドイツとかフランスのヴィシー政権、イタリアのムッソリーニ政権時代に逮捕された人は、今でも大事な、国民に称えらる存在になっています。たとえばドイツの国内レジスタンスといわれる白バラ運動のシヨル兄妹はその象徴です。彼らはあらゆるドイツの小学校の名前になつていたり、道の名前、広場の名前、ヨーロッパのEU議会のあるフランスのストラスブールの議会議場の前の橋は白バラ橋と呼ばれています。

白バラ運動の人たちは、いわば弾圧された「京大俳句」の俳人達と似ているところが多いです。京大俳句の俳人も医学部生が多くて、ちよつとインテリだけど反骨精神がありました。白バラ運動の人たちは、6回にわたつてピラを配つただけです。そして逮捕されたんですが、ハンス・シヨル(医学部生)と妹ゾフィー・シヨル(看護学部生)は転向しなかったため、すぐギロチンにかけられ処刑されてしまいました。

「フクシマ以後」とか『反原俳句三十人集』(フランス人と日本人各15名の俳句を掲載)という反原俳句集を出したりして、俳句以外の社会的な活動をやるようになりました。ところが、その頃から俳壇からの原稿依頼も激減し、大学の就職の話も立ち消えになりました。でも私をいつも守ってくれたのは金子兜太先生でした。金子先生と兜太先生でした。金子先生と兜太先生に出逢つたんですが、先生は一貫して私の反原運動、反戦運動をいつも後ろから押して下さり、俳壇からの批判があるときも私を応援して下さいました。

しかし京大俳句の俳人は、執筆停止に依じた人もいたし、そのあと偽名で他の雑誌に投稿したりしても、結局社会性俳句や反戦的俳句を詠まなくなりました。それでもレジスタンスのようなことをやつた日本人がいたことだけでも大事で、今の日本の心の支えになるでしょう。だから金子先生に「少なくとも記念碑の一つくらいつくつてあげなければおかしいでしょう。彼らが不当に逮捕されて人生がめちゃくちゃになって少なくて3人は直接の影響で病死して、金子先生の先生だつた嶋田青峰もそうだから、できるならば先生と一緒に昭和俳句弾圧の碑のようなものをつくりたいんです」と言いました。2015年のことです。金子先生は「マブソン君の言

【2面に続く】